七条中学校だより１１月５号

京都市立七条中学校
令和8年11月9日
発行：校長 林 秀雄

流行語は「時代の鏡」 2026年・2021年・2016年を比べてみよう

今年も残すところ2か月を切りました。先日、「新語・流行語大賞」のノミネート30語が発表されました。今年のノミネート語を見ると、

●AI●フィジカルAI●声の権利●データセンター●言語化●酷暑日●ホビ垢●好きすぎて滅！

など、AIや情報技術、SNS、環境問題に関わる言葉が数多く見られます。では、5年前や10年前にはどのような言葉が流行していたのでしょうか。

2026年	2021年	2016年
AI	リアル二刀流／ショータイム	神ってる
フィジカルAI	うっせぇわ	PPAP
声の権利	親ガチャ	聖地巡礼
データセンター	Z世代	マイナス金利
言語化	黙食	トランプ現象
酷暑日	ゴン攻め／ビッタビタ	ポケモンGO

さて、ここで皆さんに考えてほしいことがあります。**2026年、2021年、2016年の流行語にはそれぞれどんな特徴があるでしょうか。**少し整理すると、次のような傾向が見えてきます。

年	主な特徴
2016年	スポーツ、芸能、政治・経済など、その年の出来事を反映
2021年	コロナ禍の生活変化や若者文化、人々の価値観の変化を反映
2026年	AIやデジタル技術、SNS、環境問題など未来の社会に関わるテーマを反映

●2016年の「神ってる」や「PPAP」は、多くの人が同じスポーツやテレビ番組を見ていた時代を象徴しています。●2021年の「黙食」は、新型コロナウイルスによって生まれた新しい生活様式を表していました。また、「親ガチャ」や「Z世代」には、若者たちが社会や自分自身を見つめ直そうとする時代背景が感じられます。●そして2026年になると、流行語の中には「AI」「フィジカルAI」「声の権利」など、これからの社会を大きく変える可能性のある言葉が増えています。

つまり、**2016年は「その年に何が起こったか」 2021年は「社会や価値観がどう変わったか」 2026年は「未来へ向けて社会がどこへ進もうとしているか」**を表しているようにも見えます。

【流行語には二つのタイプがある】

私は、流行語には大きく二つの種類があると考えています。

① 一時的な流行で終わる言葉

具体例●PPAP●ラッスンゴレライ●ダメよ～ダメダメ●そだねー●神ってる●ゴン攻め／ビッタビタ●人流これらは当時とても流行しましたが、現在の日常会話ではあまり使われていません。その時代を思い出させてくれる「思い出の言葉」と言えるでしょう。

② 社会や文化に根付く言葉

具体例●AI●SDGs●テレワーク●キャッシュレス●インスタ映え●DX（デジタルトランスフォーメーション）●言語化●Z世代　これらは流行語として広まりましたが、その後も社会の中で使われ続けています。

例えば、「テレワーク」は働き方を変えました。「キャッシュレス」は買い物や支払いの方法を変えました。また、「インスタ映え」はSNSでの写真の撮り方や情報発信の仕方に影響を与え、「Z世代」は若者の価値観や行動を表す言葉として社会に定着しました。さらに、「SDGs」は学校や企業、自治体などで広く使われるようになり、持続可能な社会づくりを考える上で欠かせない言葉となっています。

このように、流行語の中には一時的なブームで終わるものもあれば、人々の生活や社会の仕組み、価値観そのものを変えるものもあります。

では、皆さんに最後の問いです。**2026年の流行語の中で、10年後にも残っている言葉はどれでしょうか。**また、**なぜその言葉は残ると思うのでしょうか。**流行語は単なる「はやり言葉」ではありません。その言葉が生まれた背景には、その時代の人々の関心や社会の変化があります。流行語を見れば、

裏へ

その時代が見えてきます。そして、どの言葉が未来にも残るのかを考えることは、これからの社会を考えることにもつながります。例えば、今年のノミネート語である「AI」「フィジカルAI」「声の権利」「言語化」「酷暑日」などは、この先10年後も使われているでしょうか。それとも、その時代を象徴する言葉として記憶されるだけなのでしょうか。

ぜひ、今年の流行語の中から一つ選び、●なぜ流行したのか●どのような社会の変化を表しているのか●10年後にも使われていると思うか　を考えてみてください。

流行語を通して時代を見つめると、過去や現在だけでなく、未来の社会の姿も少し見えてくるかもしれません。今、当たり前に耳にしている言葉が、10年後には社会を大きく変えるキーワードになっているかもしれないのです。

家庭学習と定期テストに向けて６「分かった」と「できる」は違う

定期テストまで残り9日となりました。これまで学校だよりでは、家庭学習の進め方や授業とのつながり、学習環境や授業の雰囲気の大切さなどについて考えてきました。学習計画を立てたり、ワークを進めたりしている人も多いことでしょう。

さて、皆さんに質問です。**「授業では分かった。でも、テストになると解けない。」**そんな経験はありませんか。実は、「分かった」と「できる」の間には大きな違いがあります。例えば、野球のルールを知っていても、すぐにヒットが打てるわけではありません。ピアノの弾き方を教えてもらっても、すぐに上手に演奏できるわけではありません。何度も練習することで、初めてできるようになります。勉強も同じです。授業を聞いて「なるほど」と思うことは大切です。しかし、それだけでは知識を理解した段階に過ぎません。本当に力がついたかどうかは、自分一人で問題を解いたときに分かります。

例えば、●数学の解き方を見ながらならできるが、自分だけでは解けない。
●英単語を見れば意味が分かるが、自分で書こうとすると書けない。
●社会や理科の用語は聞いたことがあるが、説明しようとすると言葉が出てこない。
●国語の漢字は読めるが、書くことができない。

このような状態は、「分かったつもり」になっている可能性があります。

そこで、テスト前の今、ぜひ取り組んでほしいことがあります。それは、**「見ないでやってみる」**という学習です。教科書やノートを閉じて問題を解く。答えを隠して自分で説明してみる。自分の言葉でまとめてみる。これができて初めて、本当に理解しているかどうかが分かります。

では、具体的にはどのような勉強をすればよいのでしょうか。

●解説を見ながらではなく、自力で解く。　●間違えた問題には印を付け、翌日にもう一度解く。
●できた問題ではなく、できなかった問題を重点的に復習する。●教科書の本文を音読する。
●英単語を見て意味を答えるだけでなく、日本語から英語を書けるか確認する。
●基本文を見ないで書けるか挑戦する。　●漢字を読むだけではなく、実際に書く。
●語句の意味を自分の言葉で説明してみる。　●年表や資料を見ながら流れを整理する。
●授業で扱った文章を読み返し、登場人物の気持ちや筆者の主張を説明できるか確かめる。
●用語を覚えるだけでなく、「なぜそうなったのか」を説明できるようにする。
●家族や友達に説明するつもりで声に出してみる。　●作図や計算問題は実際に解いて確かめる。
●重要語句だけでなく、現象や結果の理由を説明できるようにする。
●実験や観察の目的や結果を言葉でまとめてみる。　●音楽は記号や用語を隠して覚える。
●保健体育は用語だけでなく内容を説明できるようにする。
●技術・家庭科や美術もワークやプリントを見直し、重要語句を確認する。

また、おすすめしたいのが「3回学習法」です。1回目は問題を解く。2回目は間違えた問題だけを解き直す。3回目は数日後に何も見ずに再挑戦する。この方法なら、本当に身に付いたかを確認できます。

残り9日ということは、まだ9日あります。しかし、もう9日しかありません。今からはワークを終わらせることが目的ではなく、「できるようになったか」を確認することが大切です。テスト勉強は、「何時間やったか」ではなく、「何ができるようになったか」が大切です。

定期テストまであと9日。ぜひ、自分の学習を振り返りながら、**「分かった」で終わらせず、「できる」まで取り組む。**そんな1週間にしてほしいと思います。その積み重ねが、自信をもってテストに臨む力となり、皆さんの成長につながっていくはずです。